

授業概要

原価計算論（実際原価計算）では、企業で製品を製造して販売したり、いろいろなサービスを提供するためにかかる「実際原価」について講義しました。しかし、実際原価には、把握するのに時間がかかる、作業能率や工程の良し悪しを測定することができないなどのデメリットがあります。そこで本講義では、これらの実際原価計算のデメリットをカバーするために生れた標準原価計算について講義します。

本講義では、講義中に練習問題を解きながら学習していきます。

授業計画

第 1 回	原価計算の全体像
第 2 回	実際原価計算と標準原価計算
第 3 回	直接材料費と加工費、加工進捗度と完成品換算量の考え方
第 4 回	月末仕掛品の評価 ①平均法
第 5 回	月末仕掛品の評価 ②先入先出法
第 6 回	仕損と減損
第 7 回	工程別総合原価計算
第 8 回	組別総合原価計算
第 9 回	等級別総合原価計算
第 10 回	標準原価計算の意義と目的
第 11 回	直接材料費差異の計算
第 12 回	直接労務費差異の計算
第 13 回	製造間接費配賦差異の計算
第 14 回	標準原価計算の記帳方法
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

日商簿記2級（工業簿記）レベルの実力をつけることを目標とします。

履修上の注意

前期の原価計算論Ⅰの講義を履修した学生が履修するようにしてください。
講義中に、練習問題を解くので、電卓を忘れずに持参して下さい。

予習復習

講義中に行った練習問題を復習する。

評価方法

試験（70%）と授業（30%）に対する取り組みを総合的に判断して評価します。

テキスト

授業中に資料を配布。